

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO. 60



2008年 2月

事務局：財団法人 長岡記念財団内

〒610-0843 京都府長岡京市友岡4丁目18の1

TEL 075-951-9201 (代)

FAX 075-954-1210 (代)

e-mail office@kyo-psw.org

【3月例会ご案内】

今回は滋賀県精神保健福祉士会との共催となります

日時：2008年3月1日（土） 14：00～17：00

会場：ウィングス京都 セミナー室B

(所在地：中京区東洞院通六角下る TEL：075-212-7490

地下鉄烏丸御池駅（5番出口）、または地下鉄四条駅・阪急烏丸駅
（20番出口）下車徒歩約5分）

テーマ：「これでいいのか金銭・貴重品管理!？」

～もう一度考えようあるべき姿、アンケートから見えてきたもの～

シンポジスト：保田美幸さん（医療法人稲門会 岩倉病院）

村上多恵さん（財団法人長岡記念財団 精神障害者生活訓練施設
アスロード）

柴田ひとみ氏（医療法人周行会 地域生活支援センター 風）

昨年度、当協会の権利擁護委員会が実施した「日常的な金銭・財産管理に関するアンケート調査」によると、金銭・財産管理を「行っている」と回答した会員、「行っていない」と回答した会員はほぼ同じ割合でした。PSWやその所属機関は金銭・財産管理を行うべき？行ふべきではない？行わざるを得ない？制度は使える？等々の意見があった。このことは本当に当事者の暮らしを支えることができているといえるのでしょうか。

例会ではアンケートの報告を行い、その後シンポジウム形式で、各領域から、金銭・財産管理についての実践や課題をお話していただきます。今後のあるべき姿を一緒に考えてみませんか。

【2007 年度初任者研修のご報告】

本協会として初の試みである京都精神保健福祉士協会による初任者研修を、昨年9月から11月にかけて3日間で開催しました。

本会の会員も年々会員が増加し、経験5年未満の方たちが会員全体の6割を占めるようになってきました。協会としても新しい会員が増えることは、頼もしく喜ばしいことではあると同時に、協会に対するさまざまな期待や責任も感じ、かねてより研修体制の充実が課題となってきました。そこで少しずつ計画を具体化させていき、研修対象となる会員に近い世代の会員にも初任者研修の委員を担っていただき、約2年間をかけて今回の実現に至りました。

どんな対象に、どんな内容を提供するのが良いのかということで、さまざま議論を交わした結果、最低限必要と思われる知識や精神保健福祉士としての価値や視点を学ぶとともに、初任者会員同士のつながりを図ることを目的として、①対象を今年度より入会3年目未満の方とする、②初日を必修として会員として知っておくべき協会の歴史や倫理を学ぶ、③2日目、3日目は最初に誰でもが悩む社会資源の知識を獲得することと、記録や面接の受け方などのスキルを学ぶこととしました。その結果、下表のとおり行うこととなりました。

7月後半の時点で対象をピックアップすると約100名、おおよそ30名程度の参加者かと思いきや、実際の申込者は54名、しかも3年未満の会員だけでなく、3年以上の会員の申込もありました。とてもうれしい誤算とともに研修会はスタートすることになりました。

初日は、中瀬会長による「協会の歴史と活動」、その後、物事務局長による「協会オリエンテーション」でした。「あまり関心や興味がないのではないか」という心配もありましたが、参加者からは大変好評でした。協会の歴史はある意味、PSWが地域や医療機関でごく少数で活動をはじめてから徐々に増え、国家資格が成立し現在にいたるまでの歴史とも言え、またひとりのPSWが成長する過程とも重なります。さまざまな困難やひとつひとつ積み重ねてきた軌跡は、同じ道を歩いていこうとする初任者の方にとっても大切なものなのだと改めて知ることができました。

午後は「倫理」。ともすると重苦しくなり、気まずい話し合いになりがちなテーマかと思いましたが、倫理について考える委員会の研修形式は、何と「寸劇」を用いた事例の提示とグループワーク。私たちが支援の現場で感じる具体的な事例から倫理を考えるとという大変おもしろい研修となりました。それぞれが改めて倫理を考える機会となったことと、先輩委員たちのこの研修に対する「とても熱い思い」も大いに刺激になったのではないのでしょうか。

その勢いか、懇親会にも多くの参加者が参加し大盛り上がり。年輩役員はそのエネルギーに圧倒されるほどでした。

2日目は「社会資源」。初任者は他の社会資源に目が向きがちです。が、まずは同じ社会資源でもさまざまな事情や地域を反映して異なる取り組みをしていることもあるので、同じ社会資源同士集まり、情報を共有しあうことを目的に行いました。ところが、当日、予想もしなかった29名という参加者の少なさに、担当者たちはバタバタ。当初予定していたグループを合体させることになり、充分その目的が果たせないグループもありました。反省です。参加者の方からは、「同じ機関同士のつながりができた」「同じ機関同士、共感できる部分、違う部分など比較して考えられた」など良い評価をいただきました。

3日目は「記録」と「面接」。34名の方が参加されました。実際に現場で働きはじめての具体的なスキル研修は、自分たちが進んでいく方向やつけるべき力が見えやすくなるため、参加者の関心も高いものでした。記録については「明日からSOAPを意識して書いていこうと思う」、面接についても「今回学んだことを早速試してみたい」など、明日からの業務に取り入れるこ

とができる内容となっており、良い学びとなったことと思います。

今年はじめての研修としては、まずは開催できて本当に良かったし、その目的も一定達成することができたと考えています。しかし、この研修を継続していくにあたっては、反省点や課題もさまざまあります。そこで、今年の参加者も数名メンバーに加え、来年度以降の研修について話し合いを始めています。

専門職として働いている私たちは、自分の力をおごることなく、その専門的資質を高めていく努力を忘れてはなりません。そのためには本協会も初任者研修を含め、研修や例会はどのようにあるべきかを検討していかなければなりません。会員 300 名にならんとする大きな集まりとなってくると、会員みなさまのさまざまなニーズに応える研修を行っていくためには、研修に対する基本的な考えとなる柱と、それにのっとった小さい単位での取り組みの工夫も必要になっているのかと思います。できるだけ早い時期に方向性を固めていくことを目標にしておりますので、一緒に検討してみようという会員のみなさま、ぜひ、役員にお申し出ください。どうぞよろしくお願いいたします。

(研修部初任者研修担当役員 熊取谷晶・西村睦美・佐藤純)

<2007 年度初任者研修実施内容>

日時・会場	内容	参加者数
2007 年 9 月 9 日 (日) 10:00～16:30 京都市健康保険組合保養所 「きよみず」	・京都精神保健福祉士協会の歴史と活動 会長 中瀬慶子 (地域生活支援センター西京) ・協会オリエンテーション 事務局長 物尚子 (高木神経科医院デイケアおいけ) ・精神保健福祉士の倫理 倫理について考える委員会 ・懇親会	49 名
2007 年 10 月 13 日 (土) 13:00～16:30 京都府職員福利厚生センター	・社会資源について知ろう！ 初任者研修委員	29 名
2007 年 11 月 18 日 (日) 10:00～15:00 京都市職員厚生会職員会館 「かもがわ」	・記録の書き方 京都府南丹保健所 西邑 章 ・面接技術について 京都ノートルダム女子大学 佐藤 純	34 名

<2007 年度初任者研修委員>

梅崎明日香・岡島明子・川崎光生・木下未来・熊取谷晶 (研修部初任者研修担当役員)・佐藤純 (副会長)・中田亮太・中谷美帆・中山常久・西村睦美 (副会長)・松田真生子・宮崎彰造・山本幸博・菅生久子 (研修部部長)

【リレー職場紹介】

つかさき医院 木村友美さん

つかさき医院は京都市北区に開設し、今年 10 年目を迎えます。以前は北山通りに面し、裏手には神社、少し東へ歩くと賀茂川という立地環境でした。手狭になったマンションのフロア

から3年前、現在の住宅街に移転しました。これまでの場所から徒歩10分ほど離れた現在の地域では、施設コンフリクトがあります。社会で暮らす当事者の現実を目の当たりにし、その生きにくさを身体感覚として感じています。

ご近所に、より一層の理解を頂くために、通院される患者様に、より質の高い治療・援助を提供するために、わたしたちはどうあればいいのか、日々の課題です。

当医院は「外来診療」・「デイケア・ナイトケア」・「カウンセリング」・「訪問看護」の部門にわかれ、チーム医療を目指しています。常勤・非常勤合わせて20名のスタッフが勤務し、その内PSWの有資格者は4名います。

どの職種（NS、CP、PSW）も専門職の領域に留まらず、業務全般に携わり、互いの視点を持ち寄る体制があります。医院全体の治療構造を把握したうえで、それぞれの専門性が発揮されるという利点があります。これは、クライアントを多面的に理解することや、援助に応じた適切な役割分担を行うことに役立っているようです。職場の中で、私が専門職として特に意識していることは、「当事者の立場にたって考える」ということです。あたりまえの事なのですが、業務に追われ、余裕がないときほど、彼等の主体性を奪い、こちら側の都合のよい支援を押し付けてしまいがちです。この主軸がぶれないよう、気をつけたいと思っています。

PSWとして窓口業務からデイケア、訪問看護などで多様なニーズに出会う中、ケースワークが問題解決型になりやすいなあと感じる時があります。どんな人も住みよい街づくり、地域力の底上げなど、ソーシャルアクションに向けて自分は何をしたらいいのかなど、大きな課題です……。とりあえず、自分ができることをするしかないですが、目の前にいる方のサポートを大切に考えて、今年はあるべく研修に出席して、皆様から学びを得て、力をつけたいと思っています。未熟者ですが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

【掲示板】

「障害を楽しく生きよう・トーク&ライブ」ご案内

日時：2008年3月16日（日）午後1時30分～4時

会場：ウィングス京都 イベントホール

出演：八尋光秀弁護士（ハンセン氏病国家賠償訴訟西日本弁護士代表）

早坂紗知&Minga・おおたか静流

入場料：1000円（ユーザー割引はありません。）

2006年12月国連で「私たちのことを私たち抜きに勝手に決めないで！」という障害を持つ人の立場から作られた「障害を持つ人の権利条約」が採択され、昨年、日本も署名しました。この条約が、精神に障害を持つ人の生きづらさを変革していく導きの星となるよう、大いなる期待を寄せています。

そして、日本が条約への署名だけに終わらず、条約の理念が障害を持ちながら生きる人たちの生活に活かされるよう国内法が整備されることを希望しています。

今回、ユーザーを中心とした発起人で、精神に障害を持つ人が受け続けた「人生被害」を訴えておられる八尋弁護士のお話と、美しい歌とエネルギッシュな音楽でつづる「障害を楽しく生きよう・トーク&ライブ」を企画しました。

別添のチラシをご参照のうえ、お近くの多くのユーザーの方々お誘い合わせの上ふるってご参加ください。

なお、賛同人、寄付も募っておりますのでよろしくお願いいたします。

障害を楽しく生きよう・トーク&ライブ実行委員会
〔 発起人：坂根輝吉 齊藤俊明 野本千春 松井秀彦
石川三絵 月川奈々 西村睦美 保田美幸 〕

日本医療社会福祉学会 第4回学会セミナーご案内

「認知行動療法を学ぶ」 講師：神村栄一氏（新潟大学 教育人間科学部）

日 時：2008年2月24日（日）10：00～16：00（9：30 受付開始）

場 所：キャンパスプラザ 第3講義室

参加費：学会員 3,000 円 非会員 4,000 円 学生 2,000 円

定 員：60 名（先着順）

認知行動療法は、主にうつ病や不安障害などに治療効果があると実証されている心理療法の一つですが、昨今、健康な人のストレスコーピングの一方法としても、非常に注目されています。感情や行動が引きおきされる前に、認知という過程があり、認知は変えることができる、それに伴って、感情や行動も変化するという仕組みを知っておくと、クライアントとのかかわりの中にも、また、自分自身の生活の中にも大いに活かすことができます。貴重な機会ですのでぜひ参加し、学びを深めてください。

【活動報告】

後援名義の使用を承認しました。

「第16回日本精神科救急学会総会 京都大会」

大会テーマ：「専門性の探求」

大会会長：京都府立洛南病院 院長 岡江 晃

大会事務局：京都府立洛南病院

開催日時：2008年10月14日～16日

開催場所：国立京都国際会館

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

入会者

小松原 宏美 さん 高木神経科医院

退会者

江本 智緒 さん 田辺病院 医療福祉相談室

玉井 早霧 さん 田辺病院 医療福祉相談室

早川 実佐 さん 前田医院

会員数 2008年2月7日現在 287名

《例会について》

例会についてお問合せをいただくことがありますので、あらためてご案内をさせていただきます。当協会では、会員の資質向上を目的に年8回例会を開催しています。例会は、会員の皆さまに向けて企画しているものですが、どなたでもご希望の方はご参加いただけます。ただし、非会員の方は、参加費500円が当日必要になります。また、事例を扱ったものや、内容によっては、参加を会員に限らせていただいています。その場合は「参加は会員に限る」と例会案内に記載しています。現在は、例会について広く広報をさせていただいていませんので、非会員の方々へのご案内は、当協会ホームページか会員の皆さまを通じてになります。皆さまからご案内の際には、上記についてお気をつけいただけると幸いです。ご不明な点などは事務局までお問合せいただくようお願いいたします。

《変更届・退会願の提出のおねがい》

所属、連絡先、郵便物のお届け先などの協会にご登録いただいている内容に変更があった場合は、必ず事務局まで変更届をご提出いただくようお願いいたします。4月下旬には総会議案書をお送りする予定です。変更の手続きをお願いいたします。

退会をご希望の方は、2008年度総会までに退会願のご提出をお願いいたします。総会を終えての退会は、2008年度の会費をお納めいただくことになりますので、お気をつけください。

変更届、退会願は、会員名簿に添付しています。コピーしてご使用ください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

《会費納入のお願い》

今年度の会費をお納めでない方は、至急お納めいただくようお願いいたします。

2008年1月末の時点で40名ほどの方が会費を納入されていない状況です。基本的には全ての方に会費を納入していただくことを前提に予算を立てています。年度末を目の前にしておりますので、協会の活動に影響がでないとも言えません。また、規約で2年間未納の場合は退会と定められていますので、お気をつけください。

なお、会費を納めたかどうか不明の方は事務局にご連絡下さい。後日会計担当者より返答いたします。ご協力をお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00960-7-120392
加入者名 京都精神保健福祉士協会
年会費 3,000円

(昨年度未納の方は6,000円、郵送負担料のある方は各年度500円を併せてお支払い下さい。)
(会計 月川・斉藤)

ほっとひと息コーナー VOL2〜お勧めの一冊〜

小規模通所授産施設 あゆみ舎 野本千春さん

「障害は心にはないよ 社会にあるんだ 精神科ユーザーの未来をひらこう」

八尋光秀&精神科ユーザーたち

2007 年 解放出版社 1400 円

仕事（PSW）を始めたばかりの仲間に、まず、この本を読んでほしい。まず値段が 1400 円である。

今日 1500 円を切る値段で新刊本が買えるだろうか？安い初任給でもこの本を買えば、あなたのこれからの仕事への向き合い方が 180 度変わるはずである。しかも平易で読みやすい。

我々は PSW として関わっている人たちを色々な呼称で呼んでいる。患者。精神病者。精神障害者。当事者。ユーザー。コンシューマー（消費者）。などなど。

さて、この本は前半が「精神科ユーザー」お二人の体験談からはじめられている。重い体験談である。後半、著者の八尋弁護士は「障害は社会にある」と指摘する。ゆえに八尋さんはこの本では「精神科ユーザー」という言葉を選んで使っている。

そして、社会にある障害の被害者を「人生被害者」と呼んでいる。八尋さんは社会が「人生被害者」たちを生み続けている状況に、ハンセン病の人たちの置かれてきた状況に通じるものがあることを指摘する。八尋さんは薬物依存症の人たちの支援、精神医療審査会への参加、えん罪事件への取り組みで、「人生被害者」の人たちの救済活動をしている。

僕は「健常者」と「障害者」について考えるときにあるひとつのイメージが心に浮かぶ。

それは、もし仮にこの世界に一人だけ背中に翼が生えていて自由に空を飛べる人がいるとしよう。

その場合、羽の生えて無い全ての人は自由に空を飛べないわけだから「障害者」。世界で一人だけ自由に空を飛べる人は「健常者」となるのだろうか？僕は違うと思う。多数者である、空を飛べない人が「健常」で、羽を持った人は「障害」を持つとされ、人生被害者になるのではないかと思う。

このようにいろいろな事を考えさせられる本である。それで 1400 円は安い。

会員の皆様ほっとひと息のコーナーへ投稿をお待ちしております。お勧めの本、場所、映画、レシピ等事務局までどしどしお寄せください。
編集委員一同

【編集後記】

もう早くも 2 月になりました。ついこないだ年が明けたと思ったところなのですが。今年はスキルアップをと考えていたのですが、いまだ何も実行できずにいます。せめてほっとひと息のコーナーの本を読むことから挑戦してみようかと思いました。（吉田）

最近は、水溜まりに氷がはっているのを見るのがへりましたが、寒い冬はまだまだ続きそうですね。みなさま、風邪には気をつけていきましょう。（永田）